

不当な扱いを受けた際の行動としては、高校生は友人を頼りに、大学生等になるとインターネットでの検索や上司への相談などを行うようになる

高校生から大学生等になるにつれ理解度レベルの高いものの割合が上がるが、大学生等になると労働条件が募集時と違う、就業規則がいつでも確認できるようになっていない等を経験した割合が高くなっている。また、問題への対処行動として高校生は「友人に相談した」割合が3割（32.0%）となっているが、大学生等ではその割合は下がり、「上司に相談した（8.3%）」「インターネットで調べた（6.5%）」などの行動が見られるようになって

